

## 1 単元 「日本の諸地域（中国・四国地方）」

## 2 指導観

- 持続可能な開発目標の一つである「包摂的で安全かつ強靱な都市」の実現に向けて、各地域の実情に即した開発計画の策定が進んでいる。交通網の整備による物理的なつながりが地域経済の活性化に及ぼす効果と課題が浮き彫りになる中、地域を担う人々の営みの在り方が問われている。

本単元は、産業や地域間のつながりといった地理的事象を中核とした考察を通して、中国・四国地方の地域的特色を明らかにさせるとともに、さらに九州地方との連携を模索している中国・四国地方の将来像を展望させることをねらいとする。主な学習内容としては、中四国サミットの開催に至る背景、本州四国連絡橋の整備による効果や課題、インフラの整備と地域振興との関係性、豊予海峡ルート整備計画の実際と地域経済への波及効果や課題、地方創生に必要な要素などである。海で隔てられた中国地方と四国地方の連携は、今や本州四国連絡橋の整備によってより強固なものとなり、経済圏の拡大が進行している。しかしこれはハード面の整備のみによって実現したものではなく、地域の相互のつながりによって相乗効果を生む観光資源の活用や、新たな産業の創出といった地域の人々の営みがあった。本単元は、そこに住まい、その地域の発展を担う人々の様々な営みに迫り、今後の我が国の地方創生に資する人材を育てるために大変意義深い。

- 本学級の生徒は、前単元「東北地方」において、東日本大震災からの復興の現状と課題を調査し、今後東北地方が最も注力すべき復興の取組について、東北地方の産業、他地域との結びつき及び人口や都市・村落といった地理的事象を中核として学習活動を行っている。本学級の生徒に中国・四国地方に関する事前調査を行ったところ、広島県や岡山県といった瀬戸内工業地域を形成する地域の認知度が高い傾向にあった。その反面、同じく瀬戸内の経済圏を形成する香川県や愛媛県に言及する生徒は全体の〇割に満たず、山陰や南四国に関して知っていることを挙げることでできた生徒は〇割程度であった。また、そもそも中国地方と四国地方が「中国・四国地方」として一つの地域にまとめて区分されていること自体に疑問をもつ生徒が〇割程度存在し、「海で隔てられた別々の地域」としての印象が強いようであった。しかし、「瀬戸内」工業地域という名称には何ら疑問をもたずに用いている様子から、地域のつながりとその背景や効果といった地域的特色の把握までには至っていないと考えられる。そこで本単元においては、生徒がもつ地域に対する素朴な印象を入口として、地域間のつながりといった視点を与えながら、生徒が自ら地域的特色を探ろうとし、今後の地域における地方創生の在り方を見出させる必要があると考える。
- 本単元の指導にあたっては、生徒がもつ中国・四国地方に対する素朴な印象や既有的知識と、諸資料から得られる地理情報との比較や関連付けを通して、課題解決に向けた新たな視点を得ながら学びを深められるような学習活動を仕組む。そのためにまず、中国・四国地方の地域的特色を概観し、単元を貫く課題を把握させる。ここでは、中国・四国地方が海を隔てているにもかかわらず連携を深めていることに気付かせるために、連絡橋の開通時期と中四国サミットの発足時期をWeb検索させ、その関連を問う。次に、本州四国連絡橋の整備が地域にもたらした影響を調査させる。ここでは、本四連絡橋の整備が地域振興に及ぼした影響を多様な視点から捉えさせるために、電子ホワイトボードで意見交流させ、インフラ整備の優位性の是非を問う。さらに、豊予海峡ルートの整備が両岸の地域にもたらす影響を調査させ、その効果と課題について議論させる。ここでは、専門家の助言や回答をもとに現実に即した意見を構築させるために、遠隔会議システムで関係部署との会議を設定する。最後に、インフラ整備による地域振興の可能性と課題について意見を表明させる。ここでは、インフラ整備による地域振興の可能性と課題について、視覚的に分かりやすい資料をもとに意見交流を行なわせるために、スライド資料を作成させる。

## 3 目標

- 中国・四国地方における交通網の整備状況や、これを活用した地域活性化の効果や課題をもとに、多様な地域間の結びつきの特色について捉えることができる。
- 交通網の整備によって変化する地域の事例を比較したり関連付けたりして、中国・四国地方の地域的特色を多面的・多角的に表現することができる。
- 中国・四国地方の地域的特色を明らかにする活動を通して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を自ら把握し、意欲的に追究しようとしている。

4 計画 (6時間)

知：知識・技能

思：思考・判断・表現

態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて (○)・研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	1	<p>1 中国・四国地方の地域的特色を概観し、単元を貫く課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・四国地方の自然環境</li> <li>・中国・四国地方の地域区分</li> <li>・中四国サミット開催の背景</li> <li>・本州四国連絡橋の開通</li> <li>・中国・四国地方の広域連携</li> </ul>	<p>◎ 中国・四国地方が海を隔てているにもかかわらず連携を深めていることに気付かせるために、連絡橋の開通時期と中四国サミットの発足時期をWeb検索させ、その関連を問う。 【B2】</p>	<p>態：インフラ整備による広域連携の事例に関心を高め、今後の地方の活性化に必要な要素を主体的に追究しようとしている。</p>
		<p>単元を貫く課題 地方創生を実現するための広域連携はどうあるべきか？</p>		
二	1	<p>2 本州四国連絡橋の整備が地域にもたらした影響を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本州四国連絡橋の効果</li> <li>・本州四国連絡橋の課題</li> <li>・インフラ整備と地方創生の関係性</li> </ul>	<p>◎ 本四連絡橋の整備が地方創生に及ぼした影響を多様な視点から捉えさせるために、電子ホワイトボードで意見交流させ、インフラ整備の優位性の是非を問う。 【C2】</p>	<p>知：インフラ整備によってもたらされる効果について、多様な視点から捉えることができる。</p>
三	2	<p>3 豊予海峡ルート整備が地域にもたらす影響を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート構想の経緯</li> <li>・愛媛県や大分県が期待する効果</li> <li>・ルート整備をめぐる課題</li> </ul>	<p>○ 本四連絡橋のようなインフラ整備が地域振興にもたらした効果が、他の地域でも同様に見られるかを確かめさせるために、豊予海峡ルートの例を示す。</p>	<p>思：インフラ整備がもたらす効果の汎用性について諸資料に基づいて検討することができる。</p>
	本時	<p>4 豊予海峡ルート整備の効果と課題について議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県や大分県が期待する効果の実際</li> <li>・ルート整備をめぐる課題の実際</li> <li>・専門家の助言を受けて再構築したインフラ整備と地方創生の関係性に関する意見</li> </ul>	<p>○ インフラ整備による広域連携が地方創生にもたらす効果や課題について現実の問題として捉えさせるために、実際に検討段階の例を通して議論させる。</p> <p>◎ 専門家の助言や回答をもとに現実に即した意見を構築させるために、遠隔会議システムで関係部署との会議を設定する。 【C4】</p>	<p>思：インフラ整備による広域連携が地方創生にもたらす効果や課題について、専門家の助言や回答を踏まえながら現実の問題として捉え、意見を再構築することができる。</p>
四	2	<p>5 インフラ整備による広域連携をもとにした地方創生の可能性と課題について、意見を表明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード面とソフト面から見たインフラ整備の在り方</li> <li>・地域の強みや弱みを踏まえた相乗効果を生み出す必要性</li> <li>・我が国における地域振興に必要な要素</li> </ul>	<p>◎ インフラ整備による地方創生の可能性と課題について視覚的に分かりやすい資料をもとに意見交流を行なわせるために、スライド資料を作成させる。 【C1】</p> <p>○ 習得事項をもとに単元課題を解決させるために、社会科ポートフォリオを活用させる。</p>	<p>態：単元の学習を通して習得した知識を踏まえ、インフラ整備による地方創生の可能性と課題に関する意見を表明し、今後の我が国の在り方を展望しようとしている。</p>

(1) 主 眼

○ 豊予海峡ルートを検討を通じたインフラ整備による広域連携の可能性と課題の議論を通して、今後の我が国における地方創生のための広域連携の在り方に関する意見表明ができる。

(2) 準 備

①豊予海峡ルートに関する資料 ②専門家とのオンライン会議で得られる知見 ③専門家とのオンライン会議を通して再構築した意見 ④社会科ポートフォリオ

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて(〇)と研究に関わる手だて(◎)評価(◇)	形態	配時
1 前時までに調査した豊予海峡ルートの効果と課題について振り返り、本時のめあてをもつ。 ・インフラ整備の効果と課題 ・広域連携と地方創生の関係 〇 豊予海峡ルートの効果と課題について振り返らせるために、前時に使用した電子ホワイトボードを各自で参照させ、現時点でどのようなことまで分かっているのかを確認する。	①		一斉 ↓ 個 ↓ 全体	5
2 専門家とオンライン会議を行ない、意見を付加したり修正したりする。 ・愛媛県と大分県が陸路によってつながろうとする背景 ・ストロー効果の懸念と対処	②	◎ 実際の社会で起きている事象と生徒の机上での思考を擦り合わせることによって、より現実に即した意見を形成させるために、豊予海峡ルートを推進する主体(大分市担当者)とオンライン会議で直接対話させ、考えの変容を問う。 【C4】	全体	15
3 インフラ整備による広域連携の可能性と課題を明らかにする。 ・海を隔てた陸地が陸路で結ばれることの意義やそれによってもたらされる可能性 ・環境問題や航路廃止による雇用問題などの解決すべき課題への対応の見通し	③	◎ 自分にはなかった意見に気付かせ、思考を深めさせるために、グループ検討に使用する電子ホワイトボードを共同編集で運用し、さらに他グループの参照を促し、考えの変容を問う。 【C1】	個 ↓ 班 ↓ 個	20
4 地方創生を実現するための広域連携の在り方に関する意見を表明する。 ・地域の強みを生かしながら弱みを相互に補完することができるような地域同士の連携 ・国土交通網の強靱化の動き ・交通網の整備と大都市一極集中、地方衰退のジレンマへの対応	④	○ 自己の成長や思考の変容を実感させるために、クラウド化された過去のワークシートを参照させたり、電子ポートフォリオに課題解決の結果と振り返りを記述させたりして、今日の時間で何が分かったかを問う。 ◇ 地方創生を実現するための広域連携の在り方について、インフラ整備といったハード面だけの言及にとどまらず、地域の強みや弱みを踏まえながら互いに相乗効果を生み出す取組などのソフト面の整備も踏まえながら今後の我が国の広域連携や地方創生の可能性について述べている。 <ポートフォリオ記述・様相観察>	個 ↓ 全体	10